

□ 情報提供項目

新型コロナウイルスのワクチン接種状況、津波避難訓練やイベントなどについて、市長からお知らせした。

□ 記者との質疑応答

記者 職員の飲食店の利用促進は、11月1日付けか。

市 そうである。コロナ会議を受け決定した。

記者 市長を含め、積極的に利用していくということか。

市 これまで4人までという制限もあったが、人数の枠を広げた。私も利用していきたいと思う。プレミアム商品券も使っていただきたい。

記者 E V太陽光実証はどこで行われるのか。

市 正面玄関で行う。デモ走行は、市役所駐車場内を走る程度である。

記者 給食の地産地消について、久慈市では地元産の生産物を35%以上地元から調達するという計画があったと思うが、現在何%になっているか。

市 令和2年度実績、重量ベースで37.4%になっている。

給食には、様々な品目使われていると思う。米は、「たかねみどり」から、「いわてっこ」になっているが、「いわてっこ」を給食に取り入れているか？

地産地消の計画を立てた段階で、調整をして入るようにしているが、量の調整等もあり、100%ではない。

記者 以前は、学校給食に明治牛乳を取り入れていた。今は、どこから仕入れているのか。

市 今は、大野の「夢牛乳」である。久慈市内の、酪農家も出荷している。

記者 昨日の選挙を受け、市長のコメントをいただきたい。

市 国全体の舵取りと重要ポストにもついていらっしゃる。三陸の2区の発展のために頑張っていたきたい。2区は条件が非常に厳しい中で、まちづくりをやっている。鈴木先生と一緒に頑張っていきたい。久慈市も洋上風力の大事業を行っている。期待している。

記者 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデルにおける津波浸水の県の検討会の初会合が6月開催、3月に最終報告まとめ、来年の4月から6月に公表を目指すというっており、当初夏ごろに公表とになっていた。今の県の対応が遅いと思うがどう考えているか。

市 県の対応が遅れ気味で、困ってはいる。久慈市内でも、次の大津波に備え老朽化も進んでいる久慈湊小学校の移転の作業している途中で、内閣府から発表された。今は県のシミュレーションの公表があり、最終的なその移転先を決定するというところで、場所の選定だけでもう1年以上遅れるということになっており、久慈市としては困っている。岩手県のシミュレーションを見た上で、候補地、移転候補地を最終決定しないとイケない。決まり次第、できるだけ早く、公表していただきたいと考えている。

記者 現在、保留になっているということか。

市 これが決まらないと、工事内容など、手を付けられない。全部ストップしている。

記者 ハード面は、県の想定などが出てからになると思うが、ソフト面ではどのように考えているか。

市 今、ハード面では久慈港の湾口防波堤の整備が進んでいる。こちらは、国交省直轄で、

予定通り進んでおり、それをできるだけ早く、遅れることがないようにしたい。日本海溝・千島開海溝沿いの巨大地震モデルに係る最大クラスの津波浸水想定の話は、東日本大震災以降に整備したハード施設が全壊する、という前提で最初に発表された。湾口防波堤が機能したらどうなるか、ということになり、数値を出してもらったが、全部壊れ想定だと、久慈市役所で5.3メートルの浸水。湾口防波堤とか防潮堤が機能すれば、1.5メートル浸水ということである。数値はだいぶ違うが、いずれにしても、津波が来ると大浸水するのは確実であるので、避難することが重要である。ソフト面では避難をしつかりとやっていくことで、今回も、津波避難訓練の対象地域を拡大した。

自主防災組織の結成についても、先日も認定式を行ったが、急いで100%まで持っていかなければならない。大地震が来たら、まずは逃げる。逃げる先がどこなのか。あとは、地区で1人で避難するのが難しい人も増えているので、そういった人に対して、誰が担当して一緒に逃げる、などそういう細かいことをまで想定が必要である。逃げる、命を守る。これが最優先で、久慈市としては、ソフト面も丁寧にやっていきたいと思っている。

記者 市役所や消防も浸水エリアになっているが、移転は考えているのか。

市 将来的には考えていかなければならない。財源も厳しく当面はこの場所と考えている。万が一の場合、市役所は指令基地でなければならぬのは、そのとおりである。先々は視野に入れて動いていかなければならないと考えている。バックアップ機能をとれるように、指令基地の場所を確保し取り組みたい。

記者 恐竜の表彰式は、会場が久慈小学校だが、小久慈小学校の生徒の表彰も一緒に行われるのか

市 表彰は、久慈小学校の生徒のみである。小久慈小学校の生徒は、先生からお渡しいただく。

記者 今回、EXITのお二人が久慈に来た。直接話をしたと思うが、どういう印象だったか。

市 すごく活躍しているEXITのお2人ということだったが、人気があると改めて思った。会場は、小・中・高校生でいっぱいだった。まちづくりをするうえでは若い人の意見を聞いていかなければならない、というようによく言われる。私たちの年になるとテンポにのっていくのは大変だったが、若い世代の人たちはすごく喜んでいて。その視点は必要だと思った。自分たちのセンスだけで選別してはいけないと、昨日すごく感じた。まずパワフルである。ああいう意識を、自分でももっていかないと。盛り上がりを感じ、来ていただいてよかったと思っている。当日は、平庭で若手の牛の取り組みなども見もらった。彼らの発信力は強いので、久慈のことを取り上げてほしい。